

抱きぬいぐるみのぬいぐるみ布の縫製

2020.01.14

トミー・マック

1. 要点

おしゃべりなど仕掛けのある抱きぬいぐるみが故障した時、修理にあたってぬいぐるみの縫製糸を解き、中の制御部などを取り出しますが、その際周りのパンヤ綿（手芸用綿）も一部取り出します。

修理が終わり元に戻す時、お腹の中に制御部などを入れ、周りにパンヤ綿も詰め込みます。

しかし、一旦取り出したパンヤ綿は解かれてしており、詰め込んでも元通りパンヤ綿の塊にならず、隙間だらけで体がパンパンに張ります。

従って、最初に縫製糸を解いた開口部に比べ、詰め込み戻した時には幅広く開いているので、ぬいぐるみ布の縫製に当たっては工夫が要ります。

2. 方法

事例として、座高が30cmもある大きなベア（くまさん）で説明します。



(a) ぬいぐるみの開口

背中にあるぬいぐるみ布の縦の合わせ目の縫製糸を切り裂いた開口部は、

切り裂いた直後



修理後のパンヤ綿詰め込み後



開口部：縦長さ約18cm、幅約9cm

抱きぬいぐるみのぬいぐるみ布の縫製

(b) ぬいぐるみの縫合

修理後にパンヤ綿を詰め込んだ状態では、膨れ上がっており縫製し難いので、ぬいぐるみ布を引き寄せ、開口の高さの中心辺りをブックバンドで縛り、高さの中心辺りを縫製糸で仮留め縫いをします。



更にその上下を合わせ 2 か所の仮留め縫いをし、開口の幅を狭めて縫い易くします。

縫製糸を引っ張りながら縫っていきます。

パンヤ綿が大きく膨らんでいたため、1回の縫製では合わせ面が綺麗でないことがあります。

その場合は、もう1回縫って仕上げます。



一般的に動物のぬいぐるみの生地は、毛足が長いので合わせ面の仕上がり状態は気になりません。

終わり